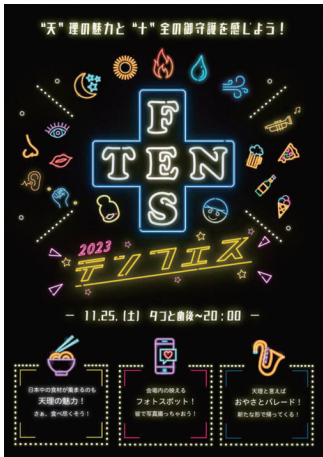


おちばより、時旬の声をいただいて



▲秋季大祭神殿講話の様子 (本文は P 2 より)

◀ 11月25日に開催される、青年会本部総会(上)と、テンフェス【後夜祭】(下)のポスター



▲青年会 100Fes 当時 (2018年)、フットサル大会 (左)、神殿前にて (右)

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp

LINE 友達登録
お願いします

お知らせ

少年会冬のお楽しみ会 11月23日(木祝)

第97回青年会本部総会 11月25日(土)

月次祭 12月15日(金) 9時30分開扉献饌

世話人先生のお話に 心を勇ませ 次は青年会総会へ

去る十月十五日の秋季大祭では、松田理治本部員先生のご臨席を賜り、先生には共におつとめを勤めて下さいまして、更には祭典講話で、「おやさま百四十年祭」へ向かう句のお話をお聞かせ下さいました。真柱様のご諭達に込められた、私達一人一人への行動指針を、噛み砕いて五つに分けて、海外布教現場の話と合わせてお話し下さり、私は非常に感銘を受けました。参拝の方々も口々に「素晴らしいお話が聞けて良かったね」と話に花が咲き、本当に有難い次第でした。『ひきよせ』には今月号、来月号の二度に渡って全文を掲載致しますので、皆様是非ご覧下さい。

最も有難いのは、総会式典において、真柱様より青年会員に向けたメッセージを頂ける事です。私も現場で拝聴致し、今後のおたすけ活動の励みに致したいと存じます。総会の日まで、いつでも誰でもご参加をお待ちしておりますので、この機会に共におちばで親神様に祈りを届け、「日の寄進」でたすかる理を頂きましょう。また昨年十月より、毎月25日に続けております「回廊ひのきしん」ですが、お陰様で一年続ける事が出来まして、今月は青年会総会が11時の為、朝8時に詰所を出発し、9時頃戻って来るように致しますので、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、お話で心勇ませて貰ったそのままに、次は十一月二十五日の「天理教青年会総会」をおちばの御本部で迎えます。数年前に「青年会100周年」の総会が行われた時と同じように、今年からついに夜の

大教会長 藤田大和



今日の話は、結論から言
えば、海外では所々の言語
とか地理とか、習俗とか法
律とかに合わせて、本教の
活動を進める必要がありま
す。日本では当然、日本語
で活動します。けれども外
国では、その国の言葉です
るといふことが、求められ
ます。先ほど申しました、
その5つの項目、教会に足

を運ぶ、おつとめを勤める、にをいかけをする、
おさづけを取り次ぐ、ひのきしんに励む、とい
うようなこと、これについては海外でも変わる
ことはない、というのが結論であります。その
ことについて、お話を申し上げます。しばらく
の間、お付き合いお願い致します。

ご紹介に預かりました、松田理治でございます。
昨年、夕張大教会にお寄せいただきたくのは、
昨日はこの大教会の秋季大祭、滞りなく勤められ
まして、ご同慶の至りに存じます。紹介にあり
ました通り、本部では海外部長という立場を務
めております。

まずはその1つ目、教会に足を運ぶ、という
ことから、海外の実例を挙げて、お話を申し上げ
たいと思います。個人的な話になりますが、
2006年の3月から2016年、前の年祭の
12月まで、天理教シンガポール出張所長を勤め
ておりました。シンガポールに、8年弱住んで
いたわけですが、シンガポールってどうい
うイメージを持たれますか。西隣の中国からずっと
南に下っていくと、マレー半島があつて、マレー
シアっていう国があるんですね。その先っぽに
島がありますが、それがシンガポールなんです。
シンガポールは、日本と同じように島国なんです
が、国土は非常に狭い。どれぐらいの国土か
と言つと、琵琶湖ぐらい、と言つても分らない
ですよ。そこで、この辺の地理でちょっと
調べてみると、ここ岩見沢市に隣接する江別市
というのがあるんですね。その岩見沢と江別
を合わせた面積が大体シンガポールぐらいなん
です。非常に狭い国です。

シンガポール出張所長として勤めた8年弱の
間、私は毎月、隣のマレーシアという国にある
講社の講社祭に通つておりました。朝5時にシ
ンガポール出張所を出て、バスに乗って、国境
の間に海がありますから、長い橋を超えて、マ
レーシアの講社に行くわけですね。当然、国を
跨ぐわけですから、パスポートも提示します。
それを毎月しておりました。当然帰ってくる時
も同じようなことをするわけです。

長い間、信仰して下さってたんですけれど
も、ご主人はまだよぶくではなかったんです。
当然おつとめも、座りづとめとよろづよ八首

ぶといふこと。『よぶくは、進んで教会に足
を運び…』という下りが論達に出てきますね。
2つ目は、ひのきしんに励む、ということ。『日
頃からひのきしんに励み…』というのは論達に
出てきます。3つ目が、身近な人にをいかけ
をする。論達には『身近なところから、にをい
かけを心掛けよう…』といふのが出てきます。
4つ目はおつとめを勤める。『おつとめで治ま
りを願ひ…』と論達にありますね。5つの最後
は、おさづけを取り次ぐ、ということなんだろ
うと思います。『病む者にはおさづけを取り次
ぎ…』と論達にあるわけです。

シンガポール出張所長として勤めた8年弱の
間、私は毎月、隣のマレーシアという国にある
講社の講社祭に通つておりました。朝5時にシ
ンガポール出張所を出て、バスに乗って、国境
の間に海がありますから、長い橋を超えて、マ
レーシアの講社に行くわけですね。当然、国を
跨ぐわけですから、パスポートも提示します。
それを毎月しておりました。当然帰ってくる時
も同じようなことをするわけです。

余談から入りますが、ローカルな話題として、
今朝新聞を読んでおりましたら、日本の都道府
県の魅力度ランキングが載つていまして、ある
シンクタンクの調査1位、ご存知ですよ。北
海道なんです。2位が京都、3位沖縄、4位東
京、5位大阪、とまあ非常に順当なところなん
です。奈良は多分下の方なんだろう、と思ひな
がら、下の方からずっと上に登つても、なか
なか出てこないんです。そうすると奈良県は第8
位だったんです。意外でしょう。非常に古い都
市ですから、京都、大阪と抱き合わせにして奈
良に来る、というようの方が多いだろう、と
思ひます。ゆくゆくは天理教教会本部があるか
ら、奈良に魅力があるんだ、というよう日が
くればな、というように考えております。



秋季大祭 神殿講話
夕張大教会世話人 松田理治
まつだ まさはる

さて今日は、大教会長さんから要請がありま
したように、特に海外のおたすけの現場です
ね、それについてお話を申し上げます。
論達第四号が昨年の10月26日に発布されま
した。ですから、本部の秋季大祭、10月26日
がやりますと、もう1年ということになるわけ
であります。

シンガポール出張所の管轄するところは、
シンガポールと隣のマレーシア、この2カ国
なんです。教会はありませんけれども、布教所・
講社がいくつかあつて、その管区の統括拠点
として、教会及び教務支庁的な役割が期待さ
れております。海外の拠点、例えば伝道庁とか
出張所、連絡所、色々ありますが、その中
は規模においても信者数においても小さい方
になるわけです。

余談から入りますが、ローカルな話題として、
今朝新聞を読んでおりましたら、日本の都道府
県の魅力度ランキングが載つていまして、ある
シンクタンクの調査1位、ご存知ですよ。北
海道なんです。2位が京都、3位沖縄、4位東
京、5位大阪、とまあ非常に順当なところなん
です。奈良は多分下の方なんだろう、と思ひな
がら、下の方からずっと上に登つても、なか
なか出てこないんです。そうすると奈良県は第8
位だったんです。意外でしょう。非常に古い都
市ですから、京都、大阪と抱き合わせにして奈
良に来る、というようの方が多いだろう、と
思ひます。ゆくゆくは天理教教会本部があるか
ら、奈良に魅力があるんだ、というよう日が
くればな、というように考えております。



が出来る、ぐらいいのものです。そのご主人も奥さんも、共に身上事情がありましたから、ある日私はその2人に、「私があなたの講社に毎月通つてるように、お二人も出張所の方に、毎月通つていただきたいと思うんです。教会としての役割が期待されてる出張所に、毎月足を運んでいただき、ゆくゆくはおつとめを学んでもらうて、おつとめ奉仕者になっていただきたい。またよぶほくになって、おさづけの取り次ぎもしてもらいたい」というお願いをさせていただきました。当然、おつとめ奉仕者になっていただくためには、おつとめを勉強していただかなければなりません。おさづけを取り次げるようになるには、よぶほくになってもらう必要があるわけです。先程申しました通り、ご夫婦には身上事情がありましたから、何かしらの成人をしなければならぬ、という風にちょうど思っておられた時だったんです。

それで、今までできなかったことをやろう、という心を定めてくださいました。具体的に言うと、毎月出張所に足を運んでもらう、ということ、おつとめを学ぶ、ということ、おさづけを取り次げるようになるため、よぶほくになる、ということでした。その心を定めてくれたわけです。そして、毎月の出張所の月次祭に足を運んでくれるようになりました。そうすると、私が毎月行くルートと、逆のルートを毎月

来てくださるようになります。前日から出張所に来ていただき、月次祭の準備を手伝い、それが終わったらおつとめをしっかり学んでいただいて、その日はシンガポールに泊まって、翌日の月次祭に備えてくださる、ということ、毎月してくださるようになりました。やがて、夫婦揃つておつとめ奉仕者になって、揃つてよぶほくになっていただきました。

私が在任中、シンガポール出張所の開設40周年記念祭というのがあって、真柱様御夫妻に御臨席いただきました。そのおつとめにも夫婦揃つて出ていただけるようになりました。また家族や親戚のみならず、友人や友達にも、にいがけをしてくれるようになって、講社祭にはただおつとめを勤めるというだけではなくて、お呼びした人たちにおさづけを取り次ぐ、というようなことをしていただいています。

マレーシアはイスラム教の国であつて、そういうところで、にいがけ・おたすけをする、というのは大変困難を伴います。そんな中、今もなお一生懸命やってくださっています。ですので教会に足を運んでもらう、ということを通して、お互いに成人して、共々に人助けに向かうことができたな、と私は実感してゐるんです。

ちなみにこの40周年記念祭の時には、実は真柱様に、マレーシアの講社に行っていたんだです。そこまで成長していただいたわけですね。ですから、いかに教会に足を運ぶということが、個々の成人に直結するかどうか、ということ、まざまざ

と実感させていただきました。我々よぶほくのつとめとして、信者さんもしっかりと足を運んでもらう、声掛けは常日頃からしていかなければならない。そしてそれが人々の成人に直結するということを信じて、声掛けをさせていただく、ということが必要なんじゃないかな、と私は感じております。

ひのきしんに励む

次によぶほくの実践項目の2番目の、ひのきしんに励む、ということについてお話ししたいと思います。今から20年以上前に、青年会でインターナショナルひのきしん隊というのがありました。これは海外の青年会員のための、ひのきしん隊ですね。そこで真柱様は、こういうことをおっしゃってるんです。「ひのきしんということは、外国ではどうか分かりませんが、少なくとも日本国内では、天理教に関する色々な事柄の中で、一番知られている言葉であると思うんです」とおっしゃった。この「ひのきしん」という言葉は、日本という国では、天理教を知らない人にも、一番よく知られている言葉じゃないか、という風におっしゃっているわけですね。それと同時に、日本のみならず、外国においても、実はこの「ひのきしん」という言葉が一番使われている言葉であろうと私は思ってるんです。なぜかと言うと、ひのきしんという言葉は翻訳されていないんです。不翻訳というんです。

翻訳というのは、例えば「紙」を訳すと、「ペーパー」になります。「水」を訳すと、「ウォーター」になります。ところが翻訳する言葉に、例えば、

は一体どういう意味なのか、ということの説明する必要があります。その場合、最も簡潔な言い方は、日々生かされる喜びを行いに表わす、という言い方になると思うんです。我々は未信者の方に比べ、教えを深く理解しているはずですから、そこから例えば、かしのかりもの、十全の守護、たんのう、八つのほこり、というようにほとんどと関連付けることができます。ですので、ひのきしんという言葉は突き詰めていけばいくほど、教えの心髄に至ることができそうです。

ところが、日本においても海外においても、ひのきしんの言葉を日常的に使っているものから、本来の意味をあまり考えないことが多いんです。ですので、ひのきしんの意味を分からない人には、正しく分かってもらえないように、分かってる人にもしっかりと再認識してもらえないような場面が、普段からないといけません。と思つていきます。

おぢばにおいては、今年7月に、おやさと練成会というものが行われました。おやさと練成会というのは、海外の若い10代の教内子弟子女を集めて、研修をさせるわけですね。学生生徒修養会・高校の部の海外版のようなもの、という風に思つていいと思います。英語コースとポルトガル語コースと韓国語コースがありました。

英語の世界でもポルトガル語の世界でも韓国語の世界でも、ひのきしんという言葉は日常的に使つてます。だから我々日本人と、そんなに変わ

わるところはありません。

彼らの意見を聞いてみると、大変興味深いことが、いくつか出てきました。彼らの中には、ひのきしん、と聞くと、肉体労働とか自己犠牲であるとか、自己満足であるとか、そういうものが思い浮かぶ、という風に言ってくるんです。実際、私も16、7の頃は、そうだったかも知れません。あるいはそのボランティアとひのきしんとはどう違うのか、という問いには、ボランティアは自分の意思でやるものだけれども、ひのきしんはやらされるものだ、と思つてるんです。というのも、英語でいう「ボランティア」という言葉は、「志願する」とか、「進んで行く」という意味もあります。だから、そういう風に考えるのも、無理はないんです。あるいは、ひのきしんという言葉は、ある場所を綺麗にするために、都合のいい言葉だ、と言った人もいるわけですね。

ところが、おやさと練成会の講義や練り合ひを通して、彼らにひのきしんの意味合いが本当に分かってくるようになると、彼らの態度がどんどんと改まっていくのが、目に見えてきたんです。

例えば、練成会のスケジュールの中で、掃除でも片付けでも、ひのきしんという言葉が使われていたのに反発していた者がいたんですね。しかし、ひのきしんの意味合いが分かってくるようになると、彼らはこういうことを言い出すようになった。「スケジュールの中にひのきしんという言葉が使われているのは、スタッフたちが私たち学生に、ひのきしんの本当の意味を、忘れさせないようにしてくれているからじゃないか。」そういうふうに捉える者が出てきたん

日本語から英語にする場合、その言葉にないものを訳す場合は、日本語からそのままそっくり使われる、ということがあるわけなんです。具体的な例で言うと、日本料理の中で寿司とか天ぷらとかありますよね。ああいうものって外国にはないので、そのまま「sushi」、「tempura」というように外国では使われる。芸事、スポーツにおいては、例えば歌舞伎とか、柔道とかそういうものもないので、外国ではそのまま使われる。あるいは日本独特の考え方とか、思想概念。例えば最近話題になっていた、もったいない、とか、これも多分訳せないと思います、侘び寂び。というのも、外国にそんな概念がないので、そのまま使われる。

我々の使つてる「ひのきしん」という言葉も、我々の生かされる喜びを行いに表す、という風に説明的なことになるので、それはもうひのきしんという言葉で、そのまま使おうじゃないか、ということ、翻訳はされていません。だから海外でも、ひのきしんという言葉は日常的に、天理教の仲間内では使つたわけなんです。全教一斉ひのきしんデーを英語で訳すと、「Taniko Hinokishin Day」になります。

考えてみますと、我々日本人の中でも、天理教を知らない人に対して、ひのきしんという言葉を使つても、そもそも理解していただけないわけで、そういう人に対しては、ひのきしんと

ですね。そうすると他の者の中には、じゃあせめて、このひのきしんの最中は、生かされている喜びを常に心に置いてやるうじやないか、と言いつつようになったんです。

それが進んでいって、例えば朝のおつとめの行き帰りの時に、生きてることの喜びが心の中になれば、それはひのきしんになるのか、じゃあ食事をする時はどうなのか、お風呂に入っている時はどうなのか、というように、ほとんど自分たちの行為に、生かされている喜びを関連付けるようになってきたんですね。正しいか間違っているかはともかくとして、そうした心の変化というものを、非常に頼もしく思っていたんですね。

ですので、論議で求められてる、ひのきしんに励む上で、その意味を真に分かる、ということが欠かせない、と私は思っています。本当に何の気なしに、ひのきしんに励む、という言葉を使っていますけれども、先ほど申しましたように、ひのきしんの意味を知らない人には、しっかりと伝える必要がある。またひのきしんの意味が分かっている人たちに対して、しっかりと日々再確認していく。そういう作業が、先じてこの道についている我々に、必要なんじゃないかなと思います。

ひのきしんの機会というものは、私は丹精の機会、あるいはにいがけの機会になるとも、私は信じています。

身近な人々ににいがけをする

続いては3つ目、身近な人々ににいがけをする、ということについて、お話をさせていた

きます。にいがけということは、この道の教えとか、その精神を良き匂いであるとして、それを辺りに振りまいていくことの例えです。端的にはにいがけを、例えば布教という言葉で表したり、伝道という言葉で言ってみたりするわけです。

ちょっと難しい話をしますけど、日本国憲法の第20条、信教の自由というのがあるんです。何人に対してもこれを保証する、と明示されています。信教の自由というのは、ある特定の教えを信じる自由があつて、また宗教的行為、おつとめとか布教とかをする自由もあつて、また同じ仲間が集まる結社の自由もあります。天理教を信仰するという自由、おつとめや布教に表すという自由、また教会・布教所を結成するという自由が、この日本国にあるわけなんです。

なんでこんな話をするかというと、海外では実はこれが当たり前ではないんです。世界の多くの国・地域では、信教の自由は、実は謳ってません。しかし、それは必ずしも、今言ったような日本における自由と、同じとは限りません。簡単に言うと、天理教を信仰することができても、布教はしてはいけない、という国・地域があります。ましてや宗教結社、つまり集まって活動する、というのは以ての他だ、というように国・地域もあるわけなんです。

例えば、天理教にはインドネシア出張所・ネパール連絡所というものがあります。そこに天理教の出張所、連絡所があるんだけど、実は国の法律に照らし合わせると、そういうものはいけない、ということになっている。だから、看板はかけていない。天理教海外部のホーム

ページには、その2つは載せてないんです。そういうところもあるわけですね。

私の居たシンガポール、これも一応信教の自由があります。誰がどの宗教を信仰しようと構わないことになってるんです。天理教シンガポール出張所にしても、政府から認められた団体なんです。でも、活動するには、実は制限があるんです。言い出せばきりがないので、詳しいことは省きますが、こと布教という点に関しては、シンガポールという国では、シンガポール人が他のシンガポール人々ににいがけをしていいけれども、日本人を含めた外国人がシンガポール人に布教することはできないんです。実はそういう国・地域っていうのは、世界中にたくさんあるんです。

じゃあなぜ、私がシンガポール出張所長として、滞在許可が下りたのかというと、結局宗教指導者としての、シンガポール出張所からの呼び寄せですね。そういうことで労働許可証が出たわけなんです。しかし、天理教の信者と理解者に教えを説くということはできても、何も知らない人に天理教の教えを説く、ということは私は許されていませんでした。

シンガポール出張所というところは、車で20分ほど離れたところに、文化センターというのを持っていて、そこで日本語教室をやっています。日本語を教えるわけですね。しかも、誰しもが日本語を学べるわけじゃなくて、一応天理教の信者、あるいは天理教の理解者ということになってもらって、初めて日本語教室に行ける、ということになってるんですね。私がいた時、最大300人の学生がいました。それだけ日本語を

学びたい、という人がいたわけですね。

日本でも同じように、教会とか布教所で、色々な動きをしているところがあります。例えば道場であったり、教室とか塾であったり、あるいは幼稚園とか保育所とか学童保育であったり、もっとも一般的なには少年会活動の一環として、鼓笛だったり和太鼓だったり、あるいは最近よく話題になってることも食堂とか、そういうものもありますね。他にも色々あると思うんです。これらの活動に、それぞれ目的があるはずなんです。天理教の理解者となつてもらった人に、日本語教室だけではなくて、いかにして出張所に足を運んでもらうか、ということが日本語教室をやつた目的でした。そうすると、私は理解者の人たちに、教えを説くということができるわけなんです。

実際に出張所で行事をする、と、たくさんの方が来てくれるんですが、天理教の教えに真剣に耳を傾けてくれる人って、ほんの一握りなんです。300人いたら、本当に2人とか3人とか、それぐらいなんです。

そんな中、ある1人の女性が、おつとめに興味を持つようになったんです。その人曰く、自分は天理教のことはほとんど知らない、音楽も分からないけれど、あの琴という楽器、こんな私にもできるのか、と言つたようになってきた



んです。私は、今すぐおつとめということは無理だけれども、まずは練習から始めてみましょう、と答えました。ちょうどその当時は、シンガポール出張所の40周年記念祭に向けて、おつとめ奉仕者を増やしましょう、という動きをやつてましたので、しっかりとその女性に琴を学んでもらおう、ということで私と妻はほぼ毎週、琴の練習の時間を持ちました。私も琴の調弦や糸の張り替えとか、そこまですることができるように努力をしました。お互いの成人の場でもありません。その女性は、シンガポール国立大学という非常に優秀な大学があります、世界の大学ランキングに、トップ10ぐらいに入るような大学なんです。その大学で博士号を取つた研究者だったんです。非常に頭のいい人でした。まあおちばにも帰つたことがなくて、別席も運んだことがなかった。でも私と妻は、その人に対して毎週、琴の練習をずっと施していっていただけです。

おつとめということを通して、その人は自分の成人に繋げてくださったわけなんですけれども、先ほどその人は頭のいい人だと申しました。でも私はその人が本心に偉かったのは、頭からじゃなくて形から入つたからなんです。人間というものは、頭で理解してから、形に表すことが多いもので、それが決して悪いことではなくて、むしろ普通なことであるうと思えます。まず分らないことがあると、頭で考えて、これができる、これはできない、というように判断していくものだと思うんですね。教典の勉強会をやつた時も、まず形から入つたんです。まず丸飲みにするところから入つたんです。そうして日々の生活の中で、教えを実行して理解し、修得していききました。

彼女は今、台湾の教友の方と結婚されて、台湾に住んでいます。先月コロナ禍が終わって4年ぶりに、おちばがえりをしてくれました。ご主人と子供2人、5歳と7歳かな、連れて帰ってきてくれました。帰国されてから私にメールをくれたんです。そのメールの中には、このように書いていました。「私にとってこの三年千日の目標は、子供たちをしっかりと育て、そして年祭に揃つておちばがえりをする事です。その時には、私たちの子供に、鳴物をしっかりと学び始めてもらいたいと思います」。だから彼女がシンガポールを通つた道を、そのまま伝えてもらいたい。ひいては、おつとめの修得ということを通して、次の世代ににいがけをしてもらいたい、というように私は思っています。

♪ 鼓笛体験会開催報告 ♪

10月21日、鼓笛体験会を開き、少年会員16名、スタッフ11名が参加した。

みんなで参拝、おつとめ練習の後、それぞれ希望のパートに分かれて基本的な練習を行った。今回、若手スタッフが多く集まり、久しぶりに以前のようなスムーズな指導で、子ども達も上達の手応え感じているように見受けられた。

昼食後、各所のひのきしんをして、14時頃解散した。

体験会は3回目。次回は12月16日よいよ鼓笛練習会として始動するべく準備進行中です！ぜひ、ご参加下さい。

(団長 藤田豊)



秋季大祭の様

10月の夕張の秋季大祭は、好天に恵まれ、紅葉映える旬に、松田理治世話人先生のお入り込みを頂いてのものになった。先生は14日夕方ご到着され、15日の祭典後までに、今回は大教会役員夫妻と親しく懇談されて、夕張とグッと近付いた感をお持ち頂いた。

祭典は、朝の冷え込みでストロブを点けて始まったが、途中からおつとめの熱も上がり、先生のお話もじっくり聞ける程となった(神殿講話は、2ページから掲載)。



10月に入り、急に朝晩が冷え込むようになってきました。昼間はまだ暖かく、布教に歩くには絶好の季節になりました。

お言葉をいただきました。大人を連れていくおちばがえりは今回が初だったので、足の悪い方へ

愛知 夕張 張志の 高橋 悟 布教日誌 vol.7



も良いところだった。」という

の対応や 大人向けのレクリエーション、神殿案内のやり方など勉強になることがたくさんありました。

今後、自分たちがおちばがえりを企画する時に活かしていきたいです。また、大原大教会の青年会の方々が布教実修に来られ、一緒に一日にをいがけに歩きました。まったく布教をしたことが無い方と歩かせていただき、気持ちを新たにまた勇むことができました。布教の家庭生活も後半戦に突入していきますが、最後まで気持ちを切らさずに、勇み心を持ってたまま北海道に凱旋したいと思

雅楽を通じ、一歩前進 雅夕会定期練習会

雅夕会(夕張部内)で結成される雅楽会)は、11月より定期練習会を開催します。左記の通り、技術レベルに合わせ、コースを分けて実施いたしますので、初心者の方でもどうぞお気軽にご参加下さい。

(雅夕会事務局 岩佐善昭)

11月の開催予定

- 12日 10時~12時 龍笛上級
 - 13日 13時~15時 龍笛初級
 - 18日 10時~12時 鳳笙初級
 - 17日 17時~18時 箏篋初級
 - 17日 17時~19時 龍笛初級
 - 19日 9時~11時 龍笛上級
- 参加希望者は、事前に岩佐(090-9088-9004)または渡部(080-4709-4056)までご連絡下さい。管の貸出についてもご相談に応じます。



10月25日 廻廊ひのきしん

庶務部 10月

- ▽おまもり 2件
- ▽教養掛
- 11月前半 高橋 太志(祝梅)
- 後半 梶川創一郎(新生生)
- 12月~2月(詰所当番) 梶川創一郎(新生生)

大教会日誌抄 10月

- 1日 たすけ推進会議
- 6日 会長夫妻、上富良野分巡教
- 4日 会長、支部例会、組例会
- 6日 会長、幌部分巡教
- 7日 会長、旭部分巡教
- 8日 会長夫妻、峰延分巡教
- 前会長、長沼分巡教
- 北弘分三代会長50年祭
- 11日 会長夫妻、理喜道分巡教
- 13日 会長、幌向分巡教
- 14日 秋季大祭準備
- 15日 秋季大祭
- 16日 前会長、教誨師(札幌刑務所)
- 17日 会長夫妻、夕喜元分巡教
- 18日 前会長夫妻、札美分へ
- 19日 会長夫妻、栗山分巡教
- 21日 会長 おちばへ
- 22日 会長、兵神大ひのきしん
- 23日 会長、兵神大秋季大祭参拝
- 24日 会長、本部神殿当番
- 25日 会長夫人、おちばへ
- 26日 本部秋季大祭 遥拝式
- 27日 会長、かなめ会
- 29日 会長夫人、本部婦人会例会
- 前会長、おちばへ
- 31日 前会長、帰会
- 南空知支部ようばく一斉活動日